

ステント内再狭窄に対するパクリタキセル溶出型バルーンの長期有効性及び安全性 についての検討 <参加説明書>

1 研究の対象

柏市立柏病院において、平成26年1月1日から平成28年3月31日までに、ステント内再狭窄に対する薬剤溶出性バルーンによる経皮的冠動脈カテーテル治療を受けた患者さん

2 研究目的・方法

冠動脈疾患では、ステントを用いた経皮的冠動脈カテーテル治療は、その有効性について広く知られています。しかし、ステント再狭窄と呼ばれる再度血管が狭くなる現象が一定の割合で存在し、それに対する治療法は十分には確立されていません。ステント再狭窄に対する薬剤溶出性バルーンによる治療は、従来型のバルーン拡張のみと比較し有効とされ、新たなステント留置を行わずに治療できる可能性があります。

本研究は、これまでステント内再狭窄に対し薬剤溶出性バルーンによる治療を受けた患者さんの長期治療成績と治療内容、画像所見などを再評価し、その有効性に影響を与える要因を検討することを目的とするもので、東京医科歯科大学医学部附属病院を総括施設とし、柏市立柏病院は関連病院施設として多施設共同研究に参加します。

3 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、性別、既往歴、臨床検査所見、冠動脈カテーテルの画像所見、治療方法、臨床事象、転帰を収集、解析します。本研究は過去の臨床データを参照しますので、患者さんに新たな負担をお願いする事はありません。

4 外部への試料・情報の提供

本研究で得られたデータは匿名化の上、データベースとして保管し、研究終了後10年が経過した日まで厳重に管理いたします。データ登録は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。

5 研究組織

東京医科歯科大学医学部附属病院 足立 貴志

青梅市立総合病院 清水茂雄

土浦協同病院 角田恒和

柏市立柏病院 小林和郎

東京山手メディカルセンター 薄井宙男

秀和総合病院 安達 進

都立大塚病院 大淵信久

6 お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

柏市立柏病院循環器内科 小林 和 郎

〒277-0825 千葉県柏市布施1-3 Tel 04-7134-2000 (代)